

	岩手大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:400 第3年次:20） 大学院工学研究科（M:165 D:20）
沿 革	昭和14（1939）年 盛岡高等工業学校創立 昭和19（1944）年 盛岡工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制岩手大学工学部設置 昭和43（1968）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成8（1996）年 大学院工学研究科修士課程を廃止し、工学研究科博士 前期課程・後期課程に再編
設置目的等	<p>昭和14年、岩手大学工学部・工学研究科の母体の一つである盛岡高等工業学校は、中堅技術者の育成を目的として設置され、昭和19年に盛岡工業専門学校へ改称された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、盛岡工業専門学校は、岩手大学工学部として承継された。</p> <p>昭和43年、工学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて科学技術の進展に寄与すること、及び学部において履修した一般教養と専門知識や技術を基礎として広い視野に立ち一層深く専門分野を専攻し、精深な学識と研究並びに応用の十分な能力をもつ人材を養成することを目的に、工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成8年、専門分野において自律的に研究を推進し技術開発を行うための高度な研究能力と十分な応用力を持つ研究者・高級技術者等を養成することを目的に、工学研究科博士前期課程・後期課程に再編された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>岩手大学は、「ものづくり技術」の更なる発展と、持続可能な社会を支える「ソフトパス工学」の構築と実践を目標に掲げるとともに、東日本大震災被災地にある国立大学として、震災復興に全力で取り組むことを使命として教育研究を推進しており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 高度な専門知識と高い倫理性、課題発見・解決能力などを修得させ、グローバルな視点と協創的実践力を備えた高度な技術者等を育成する役割を果たすとともに、最先端科学技術の発展や産業の活性</p>

化に貢献する国際性豊かで、創造力と適応力を備えた高度な専門技術者・研究者を育成する役割を果たす。

- ものづくりエンジニアリングファクトリーでの起業体験プログラムや、企業が抱える課題の解決を目標とする産学が協働で研究指導を行う6か月間の長期インターンシップなど、特色ある教育実績を生かし、海外大学とのデュアルディグリー制度や研究インターンシップなどの国際的水準を踏まえた教育改革を進め、国際的に通用する工学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- 金属生産工学、表面界面工学など実績を有する特色ある研究をさらに発展させるとともに、被災地岩手が抱える最重要課題である震災復興に寄与するため、安全安心に関する工学分野の研究を推進する。
- 岩手県における地域企業・自治体等との共同研究や相互友好協力協定を通じて培った産学官連携の実績を活用し、岩手県内陸部及び沿岸地域に開設したサテライトキャンパスを中心に、県内企業への技術移転や技術者再教育などを通して産業振興や地域課題の解決に資するとともに、グローバルな課題の解決に必要とされる新技術の開発を推進し、産業界や社会に還元する。
- 地域を支える「エコリーダー」・「防災リーダー」の育成プログラムや、21世紀型ものづくり人材岩手マイスターなどの実績を生かし、社会人のキャリアアップや企業人材の技術力向上に寄与するため、社会人向け教育プログラムを推進する。
- 岩手県沿岸市町村の復興と地域の持続的発展に向け、全学的な三陸復興や地域防災の取組において、防災、まちづくり、工業・水産業などに関連する工学分野の教育研究資源を活用し、東日本大震災被災地の復興を継続的に推進する。